

道史編さん（教育）

2020年12月28日

進捗状況報告(社会教育)

辻 智子

## 1. 前回報告（2020年3月19日）以降の作業進捗

## （1）資料探索

：道立図書館所蔵資料一覧よりピックアップ→現物取寄（青年教育、青年学級関係資料）

：各市町村教育史をレビュー→自治体より資料取寄（標茶町、※士別市は未発見）

## （2）別海町・労農学習会関係資料の整理（終了）

## （3）標茶町資料の整理（途中）

→引き続き資料探索活動を継続予定

## 2. 掲載候補資料（未完）

## （1）資料選定の基本的視点

○既刊の道史、道教育史を踏まえ、今回は、道庁レベルより各市町村自治体レベルの資料に、また制度・政策文書よりも実践資料・団体資料・生活史資料に重点を置く。

○地域の広がりを意識する。

○地域婦人・女性関係は「社会・文化」へ（農村＝小内、男女平等政策＝林）。

○博物館・ミュージアムも「社会・文化」へ（?）。

## （2）掲載候補（案）

【占領期～1950年代（公民館、青年教育の全道的な動向、青年教育@農村）】

■公民館設置要綱（1946年）以後、社会教育法成立（1949年）以前の公民館

※1947年公民館が開館、1949年『標茶公民』1号発刊、1952年『公民館ニュース』第1号発行→『月刊標茶』（公民館編集・発行、第1号、1949年2月24日～23号）から

■1950年、道青協と道教委が「青年学級開設要項」を作成し、各市町村長に協力要請

■1950年代～60年代、高等学校(定時制含む)設置運動を展開

■1950年代、置戸・青年読書会

【1960年代～70年代（青年学級、勤労青年教育）】

■1960年代初頭、帯広・商工青年学級、網走管内・青年学級研究集会

■1960年代半ば、厚岸町・勤労青年学校、池田町・商工青年学級

■1970年代後半、岩見沢勤労青少年ホーム、青年教室関係資料

【1960年代・農民大学～1970年代以降の労働者と農民の共同学習運動】

■教委・農委・農協共催（15泊16日）士別農民大学（1960年代）※資料未発見

（1959年頃～移動村づくり大学、1960年代に道南へ広がり、1960年代末、白糠で第一回労農大学～労働大学の全国的展開との関連）

■1970年代、別海労農学習会→別海酪農の未来を考える学習会→マイペース酪農（現在）